

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実践実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎3階実技室
担 当 教 員	澤 卓実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
《授業科目における学習内容》						
履修内容の復習を徹底して行う。実技試験前に認定実技審査形式で練習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%(財団実技試験に準じる形式にて実施する)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) 適宜資料の配布を行う						
《授業外における学習方法》						
柔道整復学理論編ならびに実技編を用いて、骨折・脱臼・軟部組織損傷の各項目を復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
3年生時の認定実技審査で、学生が実力を発揮できるように、2年生から認定実技審査の形式に慣れてもらう。次年度の11月に行われる認定実技合格に向けての第一段階となる。積極的に練習して欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 鎖骨骨折を各自で確認しておく。	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査の説明、上肢の神経・血管損傷の確認方法、鎖骨骨折			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸骨折の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 上腕骨外科頸骨折を各自で確認しておく。	
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸骨折			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 コーレス骨折を各自で確認しておく。	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節上方脱臼の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 肩鎖関節上方脱臼を各自で確認しておく。	
		各コマにおける授業予定	肩鎖骨関節上方脱臼			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 肩関節脱臼を各自で確認しておく。	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 肘関節脱臼を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘内障の整復法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 肘内障を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	肘内障		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	腱板損傷、上腕二頭筋損傷の検査法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 腱板損傷 上腕二頭筋損傷を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	腱板損傷、上腕二頭筋長頭損傷		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋損傷の検査法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 大腿四頭筋損傷 ハムストリングス損傷を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	ハムストリング損傷・大腿四頭筋打撲		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	膝の側副靭帯損傷・十字靭帯損傷の検査法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 膝の側副靭帯損傷・十字靭帯損傷を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節 側副靭帯損傷・十字靭帯損傷		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	膝の半月板損傷、下腿三頭筋損傷の検査法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 膝の半月板損傷、下腿三頭筋損傷を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	膝関節 半月版損傷 下腿三頭筋肉離れ		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	足関節外側靭帯損傷の検査法を行えるようになる。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 足関節捻挫を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	足関節外側靭帯損傷		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期で習得した各項目ができるように復習する。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 各項目を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	実技試験形式での復習		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期で習得した各項目が、認定実技審査合格の水準に達する。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 各項目を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ(前半)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期で習得した各項目が、認定実技審査合格の水準に達する。	柔道整復学理論編・実技編(全国柔道整復学校協会編集)プリント	柔道整復理論 各項目を各自で確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ(後半)		